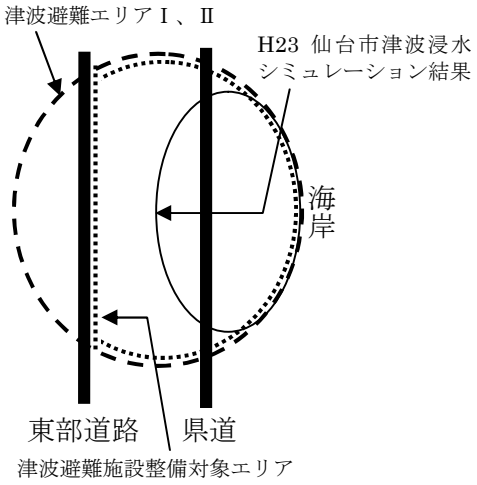


第 1 ～ 3 回検討委員会における委員意見への対応

1. 第 1 回検討委員会における委員意見への対応

発言者	項目	意見	対応
折腹委員	高所への避難時間	高齢者や車椅子の方は避難距離に限られる上、高台へ避難するのが困難である。	素案：「第 3 章 3.1 (5)要援護者への配慮」、「第 4 章 4.3 (4)地域による避難計画作成」で整理。
越村委員	津波避難施設整備の対象エリア	避難エリア、対象エリア等の用語の関連性を整理し、市民が分かるように説明する必要がある。	素案：「資料編 用語解説」で整理。 
佐藤 (健) 委員	避難対象エリア人口の見積もり	人口の見積もりに年次変動も必要ではないか。	対象エリアの将来人口は、公園等のイベントで一時的に増えることがあっても、集落全体として増える要素はないため、微増はあっても急激な増加はないと考える。現地の土地利用から考えると、最大でも震災前の人口と大きく変わりはないと考える。
徳永 副委員長	避難開始時間の考え方、避難速度	避難開始時間、避難速度を平均値ひとつでなく分布等も考慮する必要がある。	平均値のみではなく、平均値を代表値としながらも、年齢等による分布を考慮する。 素案：「第 2 章 2.2 (3)避難可能距離」、「資料編 避難行動シミュレーション概要」で整理。
増田委員	津波避難施設整備の対象エリア	県道かさ上げ前の浸水深を示して検討すべき。	避難施設の整備と県道のかさ上げとはスケジュール的に大きな開きはないため県道かさ上げ後の浸水深で検討したい。
	津波避難施設整備の対象エリア	対象エリア以外に配慮が必要な施設があれば検討すべき。	素案：「第 2 章 2.1 (1)津波避難施設整備の対象エリアの設定」に「対象エリア外でも必要に応じて検討」を追加。
	高所への避難時間	冒険広場のような高台へ避難する場合、高台避難時間が変わってこないか。	公園の高台であれば、1人が必要な高さまで上るには階段より時間がかかると想定できるが、数人が一度に上れるため、15分で避難が可能と考えている。

2. 第2回検討委員会における委員意見への対応

発言者	項目	意見	対応
今村 委員長	人口図	道路も昼夜で人口が異なる。	道路交通センサスなどには時間帯別の交通量のデータもあることから、それらを活用していきたい。 素案：「資料編 避難行動シミュレーション」にピーク時交通量を反映。
	避難行動の種別	避難時にネックになる箇所はどこまで交通規制ができるかが重要。	交通規制の考え方などについては、避難計画を考える上で重要なポイントなので、県警などと協議しながら、検討していきたい。
	避難行動の考え方	実際と想定の違いは判断できない。避難訓練、アンケートを通して判断すべき。	素案：「資料編 自動車避難に関するアンケート調査」で整理。
	避難方法の区分	「啓発が困難な方」は徒歩になるだろう。	素案：「第2章 2.4 (2)避難方法の区分」で整理。
小野 委員	人口図	昼夜で集落の人口が増えているのは岡田だけのように見えるが、岡田以外の集落も夜間人口が増える。	素案：「第2章 2.3 (2)人口を想定する施設」で円の大きさを細かく設定し表示。
折腹 委員	避難方法の区分	高齢者の場合、自力歩行可能な方と、自力歩行困難な方がいる。避難に配慮が必要な方を自動車避難としているが、どの程度自動車避難が可能か疑問である。	自力歩行が困難な方は、単独での避難ではなく、家族等の介助者との避難を想定している。 素案：「第2章 2.4 (2)避難方法の区分」、「第4章 4.3 (4)地域による避難計画作成」で整理。
	避難施設イメージ	高齢者は、どの避難施設でも高台避難が難しい。何か工夫が必要。	施設にスロープ等の設備を検討するが、高台への避難が特に困難な方は、自動車の利用も検討してもらおう。 素案：「第3章 3.1 (5)要援護者への配慮」で整理。
越村 委員	人口図	図の中に車とあるが、交通量の根拠は何か。何 km おきに配置しているか。	H22 道路交通センサス等のデータから想定している。図は、約 100 人ずつ配置しているが、配置間隔は約 1km おきである。 素案：「第2章 2.3 (2)人口を想定する施設」で整理。

発言者	項目	意見	対応
越村 委員	人口図	<p>県道の交通量は多く、一斉に3本の避難路で逃げると渋滞が発生する。</p> <p>交差点の考え方を検討すべき。特に南向き、交差点で右折して避難する自動車の渋滞が想定される。</p>	<p>自動車による避難の前提条件を整理したうえで、避難行動シミュレーションを行い、交差点を含む渋滞の発生状況などの課題について把握したい。</p> <p>素案：「第3章 3.2 (3)③交差点構造の考え方」、「資料編 避難行動シミュレーション」で対応。</p>
		<p>海水浴客のほかにサーファーも想定すべき。</p>	<p>素案：「第2章 2.3 (2)人口を想定する施設」、「第2章 2.4 (4)避難行動の種別」で整理。</p>
齋藤 委員	避難行動の考え方	<p>「平常時の周知啓発」は誰がいつどこでどうやっけ行くかという課題がある。</p>	<p>素案：「第4章 4.3 啓発：「知っておく」」等で整理。</p>
	避難方法の区分	<p>「避難に配慮が必要な方」の中に妊婦、乳幼児等も含めてほしい。</p>	<p>素案：「第2章 2.4 (2)避難方法の区分」に、避難に配慮が必要な方として、「高齢者、障害者、妊産婦、乳幼児」と記載。</p>
	避難道路のイメージ	<p>歩道が3.5mあるが、自転車も入るのか。</p>	<p>宮城県の指針においては、自転車も考慮した上で、この幅員を例示している。</p> <p>この地域の特性やシミュレーション結果も考慮しながら、幅員構成を検討していきたい。</p>
佐藤(健) 委員	人口を想定する施設	<p>七北田川以北の事業所エリアからの避難者の流入も考慮が必要か。事業所等の避難は独自に検討してもらうのであれば、エリアごとの関係を示すべき。</p>	<p>七北田川以北の事業所等の避難は独自に検討してもらう予定である。さらに、避難場所に余裕がある事業所は、近隣住民の受け入れも行っていただけるよう協定等を結んでいく。七北田川を挟んで北からの避難者の過大な流入はないものと考えている。</p> <p>素案：「第2章 2.4 (4)避難行動の種別」等で整理。</p>
	主要避難路	<p>東部道路の手前での自動車の詰まりを想定するのか。</p>	<p>避難道路の東部道路横断部の現状を把握した上で、避難行動シミュレーションに反映させたい。</p> <p>素案：「資料編 避難行動シミュレーション」で東部道路の渋滞等を反映。</p>
		<p>東部道路への車の避難用の進入口の検討は可能か。</p>	<p>東部道路から先については別途検討を行う。</p>

発言者	項目	意見	対応
佐藤(美)委員	人口図	南蒲生は高齢化が進んでおり、避難施設は近くに必要である。	集落内にいる方が歩いて避難できる範囲で避難施設の整備を目指す。 素案：「第2章 2.2 (3)避難可能距離」で、避難速度のばらつきを考慮すると記載。
		農業園芸センターは春の展示会も人が多い。	素案：「第2章 2.3 (2)人口を想定する施設」で整理。
武田委員	避難行動の種別	主要3避難路以外に一般市道も確保すべき。	素案：「第3章 3.2 (1)避難時の道路の役割」、「第3章 3.2 (2)①道路ネットワークの現状」等で整理。
		車の避難は誰が誘導するのか。	素案：「第4章 4.2 (3)自動車等での移動」で整理。
		車は東部道路以西のどの場所で留まるのか。	東部道路から先については別途検討を行う。
徳永副委員長	避難行動の考え方	一般市道へ進入する車を規制できるか、渋滞で徒歩に変更する際の誘導はできるのか等、いくつか想定に問題箇所がある。	想定について、委員からの意見を伺い、素案：「資料編 避難行動シミュレーション」の条件に反映。
		(佐藤健委員の「東部道路への車の避難用進入口」に対し) 常時はパーキング、緊急時は避難場所とできる。	東部道路から先については別途検討を行う。
平山委員	避難行動の種別	避難路は3本だけでは渋滞が発生する。農道、一般市道も広げて本数を増やすべき。	自動車による避難の前提条件を整理し、避難行動シミュレーションを行い、交差点を含む渋滞の発生状況などの課題について把握したい。
増田委員	避難行動の考え方	シミュレーションは北部の事業所エリアも含めて行い、大型車の流入等も検討すべき。	七北田川以北の事業所等の避難は独自に検討してもらおう予定である。 地震発生後、西への避難を基本としており、七北田川を挟んで北からの大型車等の過大な流入はないものと考えている。地震発生時に南へ向かっていた車等は考慮する。 素案：「第2章 2.4 (4)避難行動の種別」等で整理。
		あまり情報がない中で、それぞれの判断で行動する。具体的な交通予想をもう少し整理すべき。	具体的に避難する上でどんな問題が発生するか整理する。

発言者	項目	意見	対応
増田委員	避難行動の考え方	避難者に対し、津波が来るのか来ないのか、どのくらいの高さの津波が来るのかを示すことはできないか。	素案：「第 4 章 4.1 周知：「知る」」等で整理。
		今回のような最大の津波が発生した場合の避難行動をワークショップのようなもので検討してはどうか。	素案：「第 4 章 4.3 (4)地域による避難計画作成」で対応。
		家族の安否が不安で自宅に戻る方に、海に向かうなど言えるか。どうルール化するかが重要。	素案：「第 4 章 4.3 (2)避難ルールの提示」で対応。
	避難行動の種別	農道がどう整備されるか、もう少しネットワークが見える図を使って地元の方とディスカッションすべき。	素案：「第 3 章 3.2 (2)避難時の道路ネットワークの考え方」等で整理。

3. 第 3 回検討委員会における委員意見への対応

(1) 施設の要件に関する意見

発言者	項目	意見	対応
越村委員	施設の特徴	既存の建物等を利用する場合の比較もあるとよい。	素案：「第 3 章 3.3 (3)早期整備の考え方」で既存施設の活用について記載。
		今後の土地利用に応じて、新規に建つ物を利用することも必要だろう。	新規建築物の利用について別途検討を行う。
佐藤(健)委員	要援護者への配慮	仙台市に限らず、既存の避難施設でバリアフリーに対応しているものがあるか。	スロープを設置した避難タワーなど、他都市の事例について把握している。
佐藤(美)委員	施設の特徴	新築だと費用は高い。既存施設（岡田会館）の復旧、増改築を要望する。	素案：「第 3 章 3.3 (3)早期整備の考え方」で既存施設の活用について記載。

発言者	項目	意見	対応
武田 委員	施設のイメージ	施設イメージを4つ示しているが、4つ全て作るものなのか。	4つ全てを整備するものではなく、人口等地域の実情に応じて検討する。
徳永 副委員 長	施設要件の考え方	平常時の維持管理に関する検討も必要になるだろう。	素案：「第3章 3.1 (7)維持管理」に記載。
平山 委員	平常時の利用方法	新浜町内会の集会所が津波で流出した。図の地域利用の部分はぜひ集会所を兼ねたものを検討してほしい。	避難施設における地域利用のあり方について検討する。
	用地確保	施設の用地の確保はどのように考えているか。希望する場所を買収してもらえるのか、町内会で用意するのか。	市有地等の活用を中心に検討する。 素案：「第3章 3.3 (3)早期整備の考え方」で市有地等の活用について記載。
増田 委員	周知、啓発	避難された方が、どういう行動をとるべきか周知しておいたほうがよい。(安否確認のための名簿作り等)	素案：「第4章 4.3 (4)地域による避難計画作成」、「第4章 4.3 (5)地域による避難訓練の実施」で対応。

(2) 避難道路の考え方に関する意見

発言者	項目	意見	対応
今村 委員長	道路の使用 状況	震災時に道路を使った状況を、この委員会の中か又は関連したところで整理したい。	素案：「資料編 自動車避難に関するアンケート調査」で結果を記載。
	シミュレーションの想定	結果が出るには少し時間はかかるが、シミュレーションの想定について説明が必要だろう。	素案：「資料編 避難行動シミュレーション」にシミュレーションの条件設定について記載。
小野 委員	道路ネットワーク	主要避難路は3本、一般市道は幅員6m以上としているが、一般市道は一部かさ上げ道路とつながっていない。また、通行止めの危険性も考えられる。南北方向の道路も迂回路としての設定や拡幅の必要がある。	主要避難道路のほか、その間にある市道についても、道路相互の接続の状況や、幅員などを考慮しながら、なるべく詳細なネットワークを前提にシミュレーションを行い、道路の幅員等の考え方を整理する。 素案：「第3章 3.2 (2)避難時の道路ネットワークの考え方」、「資料編 避難行動シミュレーション」で対応。
越村 委員	シミュレーションの想定	歩道や幅員の考え方、徒歩と自動車の割合など、どの程度考慮してシミュレーションするか整理してほしい。集落全体が車で避難すると逃げ切れないという結果も含めて色々なシナリオを考えてほしい。	素案：「資料編 避難行動シミュレーション」で対応。
		シミュレーションの結果を示し、委員から意見をもらいフィードバックするという作業を何回か経験し、条件や課題を煮詰めていくことが必要である。	第4回、第5回検討委員会で避難行動シミュレーション結果をお示しする。

発言者	項目	意見	対応
越村委員	シミュレーションの想定	自動車と歩行者は同時に動かしてシミュレーションをするのか。	自動車と歩行者は同時に解析できるが、条件設定等については検討する。 素案:「資料編 避難行動シミュレーション」で対応。
齋藤委員	シミュレーションの想定	次回委員会までにどの程度のシミュレーションができるのか。自分達も参加してみないと、意見がどこに反映されるのか不安である。	第4回、第5回検討委員会で避難行動シミュレーション結果をお示しする。
佐藤(健)委員	地震による通行不能対策	主要避難道路についての考え方とあるが、一般市道も同じように考慮はするのか。最大人口である岡田地区の一般市道が心配である。今回の地震で通行不能にならなかったから大丈夫とはならない。沿道の環境整備（ブロック塀等）への対応が必要。	一般の道路に関しても、地震に強い構造とすることについて、今後検討する。
佐藤(美)委員	道路の使用状況	自動車で避難した人が歩行者を拾って逃げたという事実もあり、そういった想定も考えてもらいたい。	シミュレーションの条件として設定するのは難しいが、自動車で避難せざるを得ない方が自動車台数を減らすために乗り合っていただくなど、避難ルールとして検討する。
徳永副委員長	道路幅員の考え方	主要避難道路は車だけが避難に使用し、一般市道は車と歩行者がいるという整理になるが、常時での歩道の利用のされ方も合わせて歩道幅員を考える必要がある。場合によっては歩車分離も考える必要がある。	一般市道については、歩車分離が難しい面があるが、常時の利用の状況や、シミュレーションの結果なども踏まえ、検討する。

発言者	項目	意見	対応
平山 委員	道路幅員の イメージ	緊急時のみ3車線は反対である。特に南蒲生浄化センター1号線は交通量が多い。	道路整備にあたっては、避難時だけではなく、平常時のことも考慮しながら、総合的に判断し、車線数の設定をしていく必要がある。今回のシミュレーション結果も含め、車線数等については検討する。
増田 委員	避難時の道 路の役割	かさ上げ道路は浸水しないと考えると南北に逃げる人がいるか。その場合、かさ上げ道路から降りて西へ逃げる人と錯綜する。何パターンかシミュレーションを考える必要がある。	想定外の行動はシミュレーション条件として設定が難しいため、まず、避難行動を守って避難すれば全員が避難可能であることをシミュレーションで示す。その後、想定外の行動による渋滞等を考慮した解析を検討し、自動車避難の危険性、避難ルールの徹底を周知していく。
	道路ネット ワーク	シミュレーションで道路ネットワークはどのレベルまで入れるのか。	主要避難道路のほか、一般市道についてもなるべく詳細なネットワークを組むよう検討する。 素案：「第3章 3.2 (2)避難時の道路ネットワークの考え方」、「資料編 避難行動シミュレーション」で対応。
	道路幅員の 考え方	自転車について、避難路としてのほかに海岸公園へ向かうサイクリングロードなど、自転車専用レーンの設置についての検討もしてほしい。	避難時については、自転車、一般の歩行者、および高齢者等の速度の異なる避難者の通行を考慮しながら、歩道幅員の考え方を整理していく考えである。 また、避難道路の通常時の利用形態については、自転車の利用状況なども考慮しながら検討する。